

## がん対策に関するアンケート調査について

平成28年9月 山梨県福祉保健部健康増進課

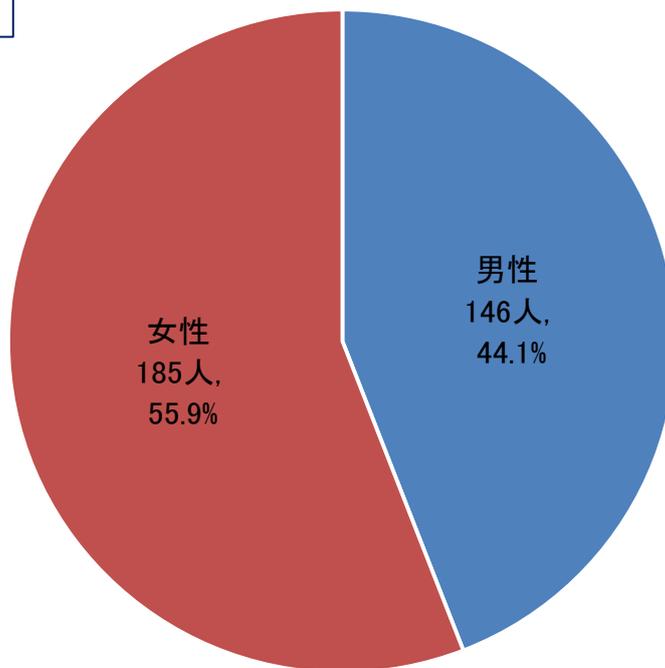
### <アンケートの概要>

アンケート名	がん対策に関するアンケート調査		
調査対象	県政モニター20才以上 (郵送モニター、インターネットモニター)		
実施目的	がん検診受診率の実態把握や、県のがん対策に関する県民の皆様の認知度等を把握し、より一層充実したがん対策を推進するため、アンケートを実施しました。		
実施時期	平成28年8月		
送付と回答	送付数	398人	(郵送330人、インターネット68人)
	回答数	331人	(郵送288人、インターネット43人)
	回答率	83.1%	(郵送87.2%、インターネット63.2%)
集計について	アンケートは20問用意し、最後の問20ではがん対策について自由意見の記述を求めました。 有効な回答を得られなかった回答については、未回答として示しました。		

アンケート結果は、次のとおりです。

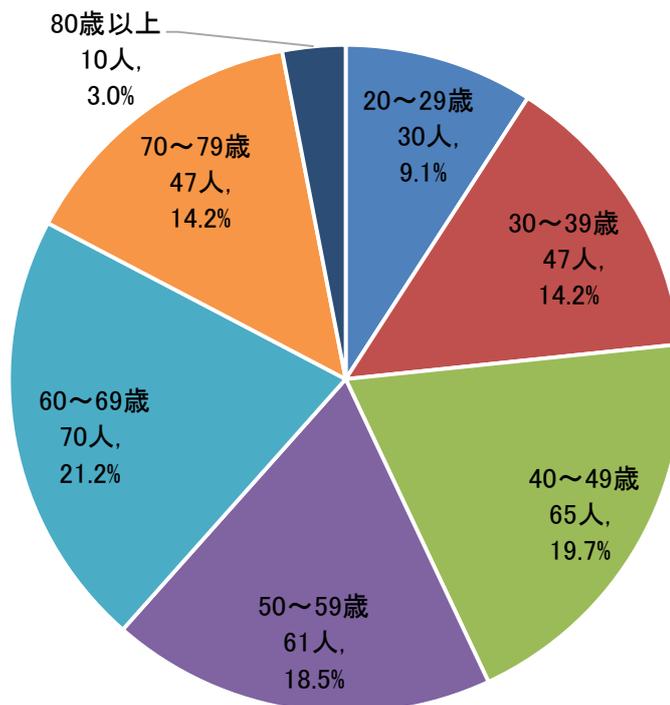
基本項目1 あなたの性別は

回答者数331人

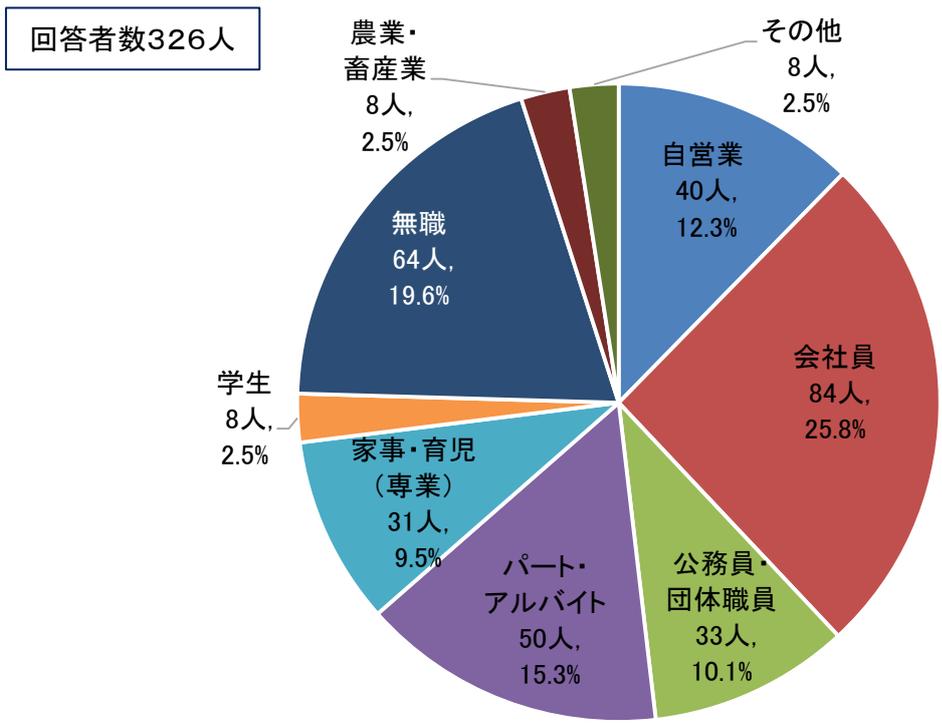


基本項目2 あなたの年齢は

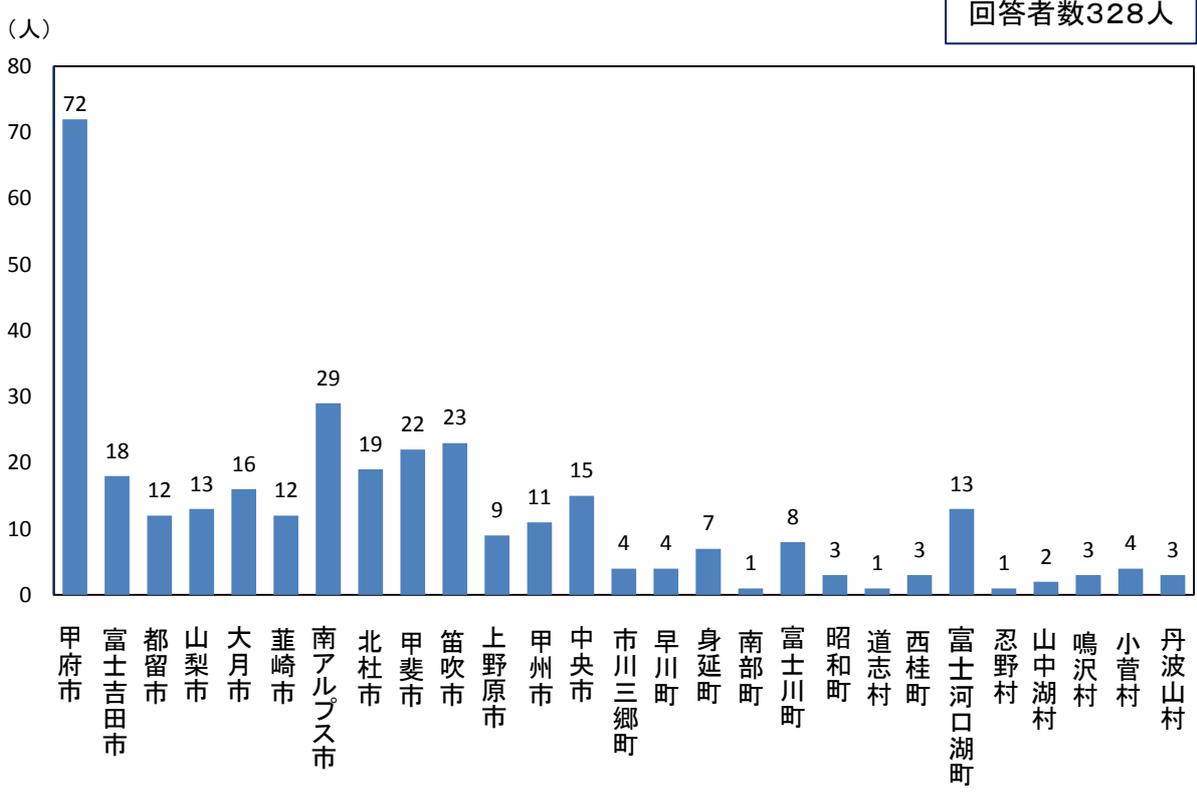
回答者数330人



基本項目3 あなたの職業は

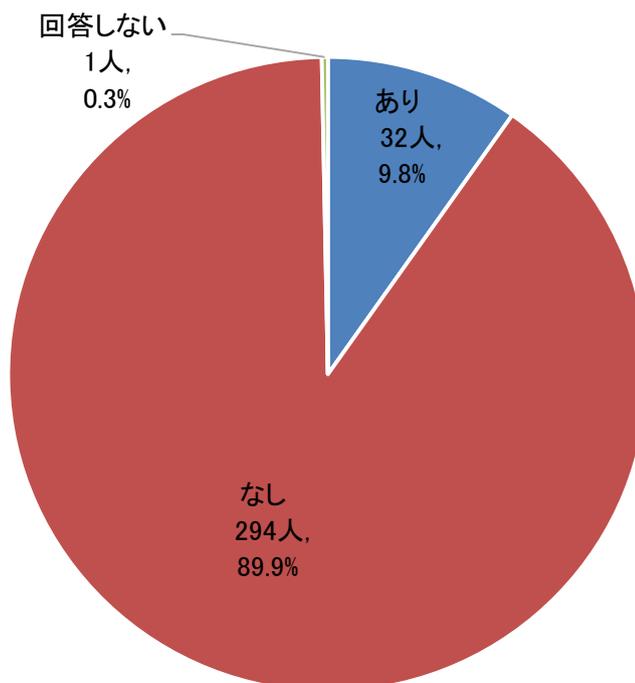


基本項目4 あなたの住まいは



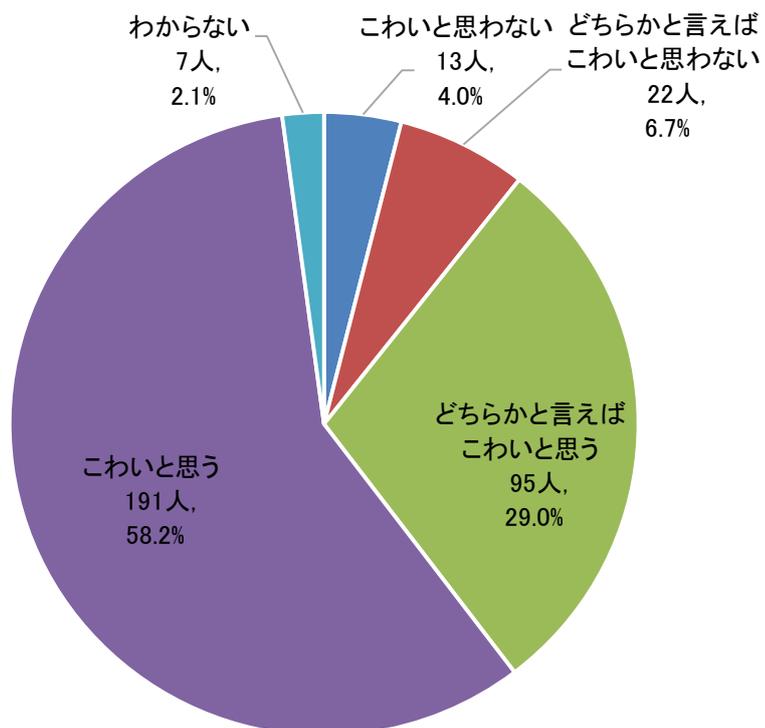
基本項目 5 あなたは、「がん」と診断されたことがありますか

回答者数327人



問 1 あなたは、「がん」についてどのような印象をお持ちですか。最も近いものを選んでください。(1つ選択)

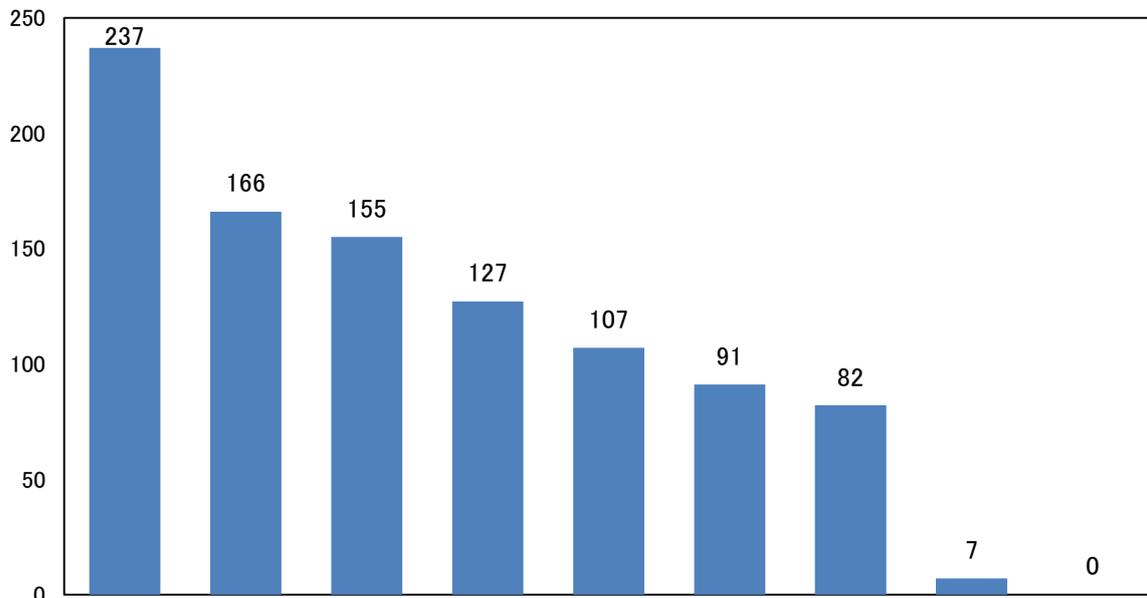
回答者数328人



問2 問1で「(ウ)どちらかと言えば怖いと思う」「(エ)こわいと思う」と答えた方にお聞きします。あなたが、がんをこわいと思う理由をいくつでもお答えください。(複数回答可)

(人)

回答者数284人



がんが治りにくい場合があるから

がんそのものや治療より、痛みなどの症状が出る場合があるから

がんの治療費が高額になる場合があるから

がんに対する治療や療養には、家族や親しい友人などの協力が必要な場合があるから

がんによって仕事を長期休むか、辞めざるをえない場合があるから

治療を受けるのに適切な医療機関を見つけるのが大変な場合があるから

がんが治っても後遺症が残る場合があるから

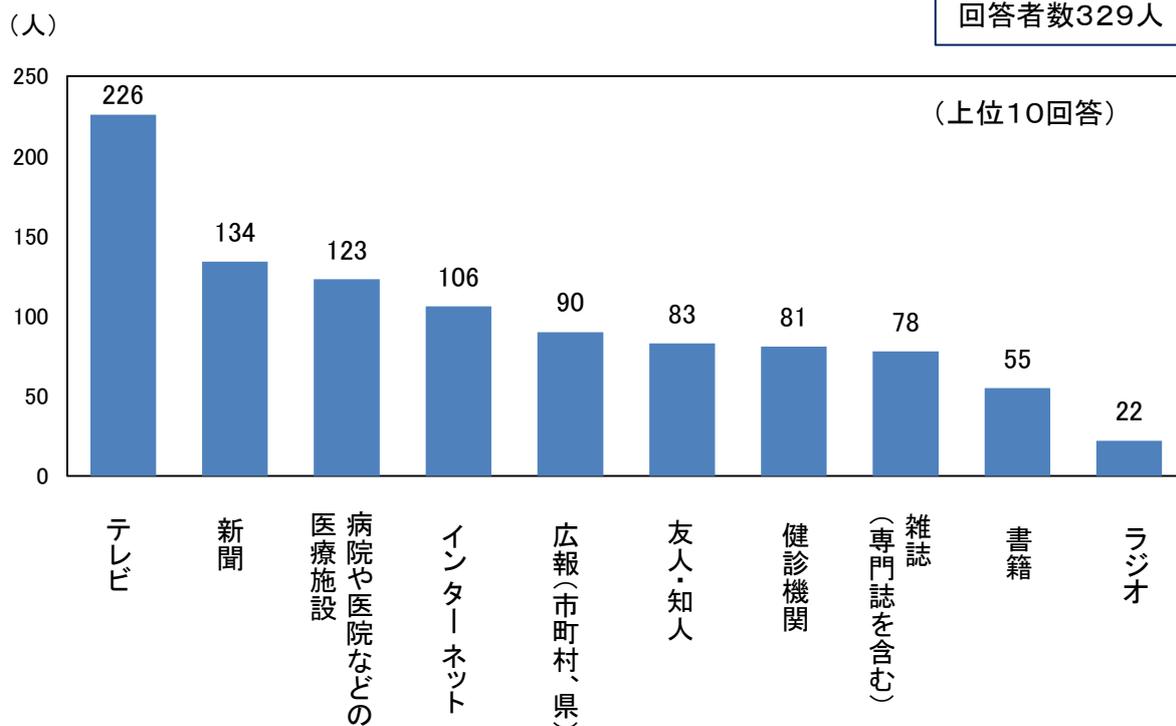
その他

わからない

(その他)

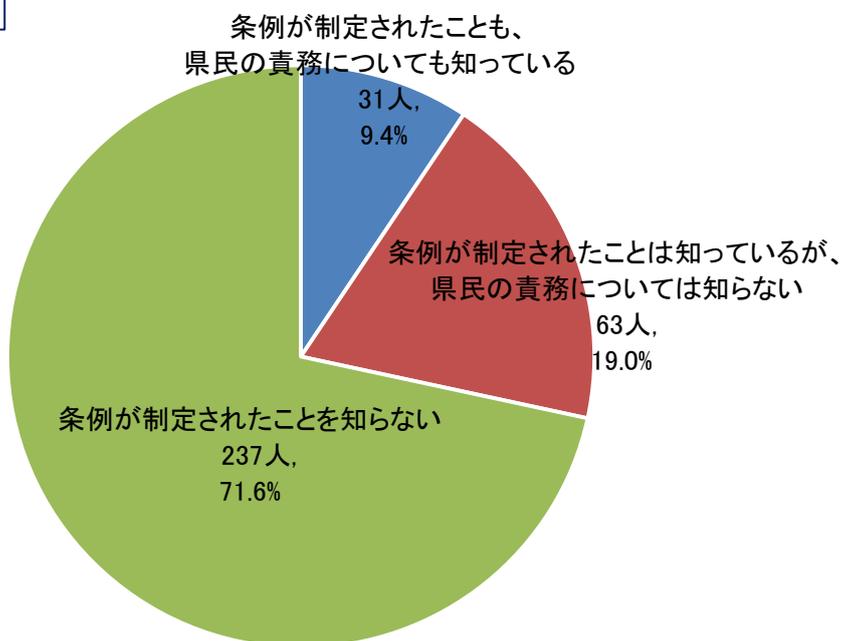
- ・家族を養えなくなるから
- ・転移、再発しそうだから
- ・不安を抱えたままの生活で鬱になりそう(精神的ダメージ)
- ・親族にがんにかかった人がいるから

問3 あなたは、がんの予防や検診、治療など、がんに関する一般的な情報について、どのようなところから情報を得ていますか。(複数回答可)



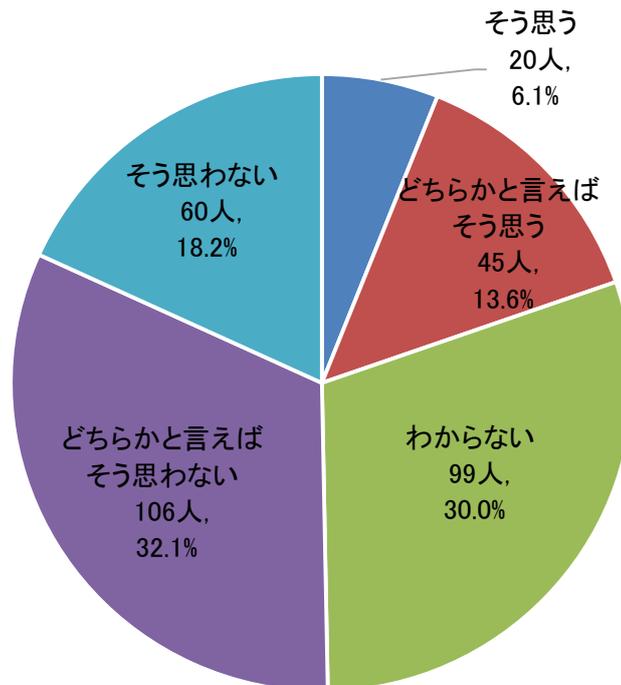
問4 平成24年4月1日に「山梨県がん対策推進条例」が施行されました。条例には、「県民は、喫煙、食生活、運動その他の生活習慣が健康に及ぼす影響等がんに関する正しい知識を持ち、がんの予防に必要な注意を払うとともに、がん検診を積極的に受けるよう努める」と、県民の責務が規定されましたが、あなたは、そのことを知っていますか。(1つ選択)

回答者数331人



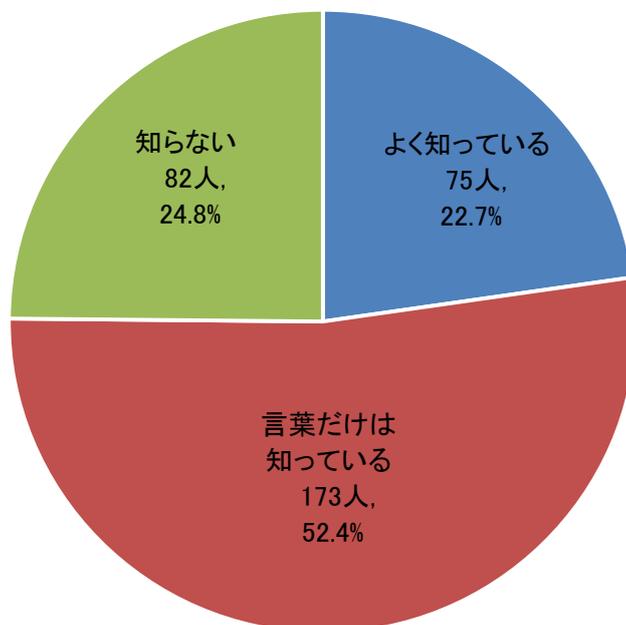
問5 現在の山梨県の社会状況では、がんの治療や検査のために2週間に一度程度病院に通う必要がある場合、働き続けられる環境だと思いますか。(1つ選択)

回答者数330人



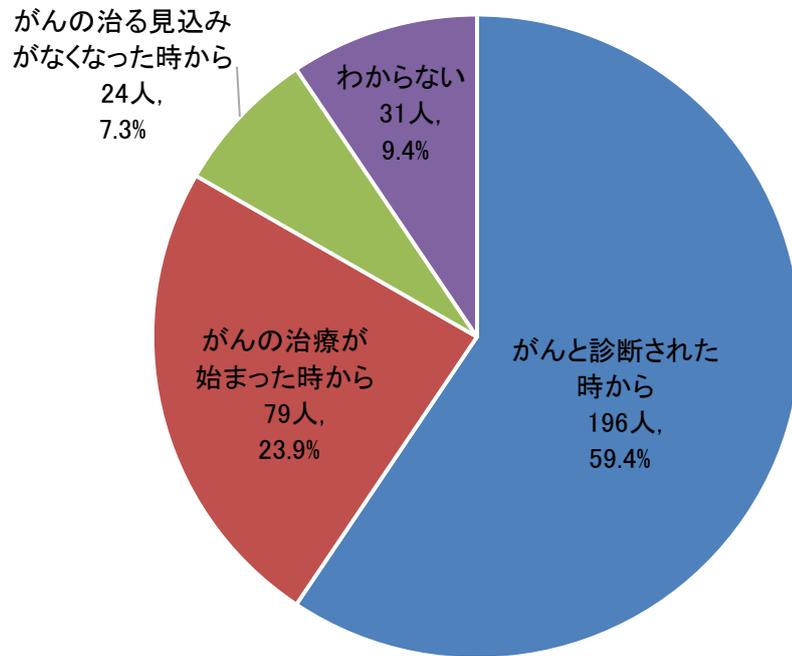
問6 あなたは、がん医療における緩和ケアについて知っていますか。(1つ選択)

回答者数330人



問7 あなたは、がんに対する緩和ケアはいつから実施されるべきものと思っていますか。  
(1つ選択)

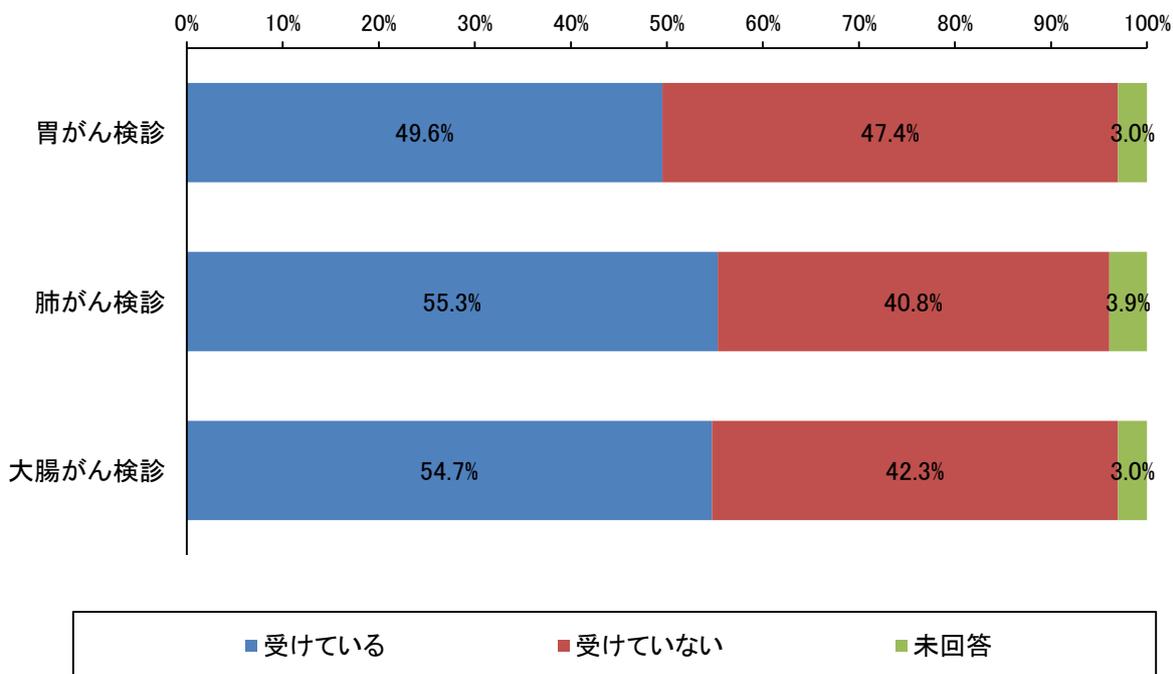
回答者数330人



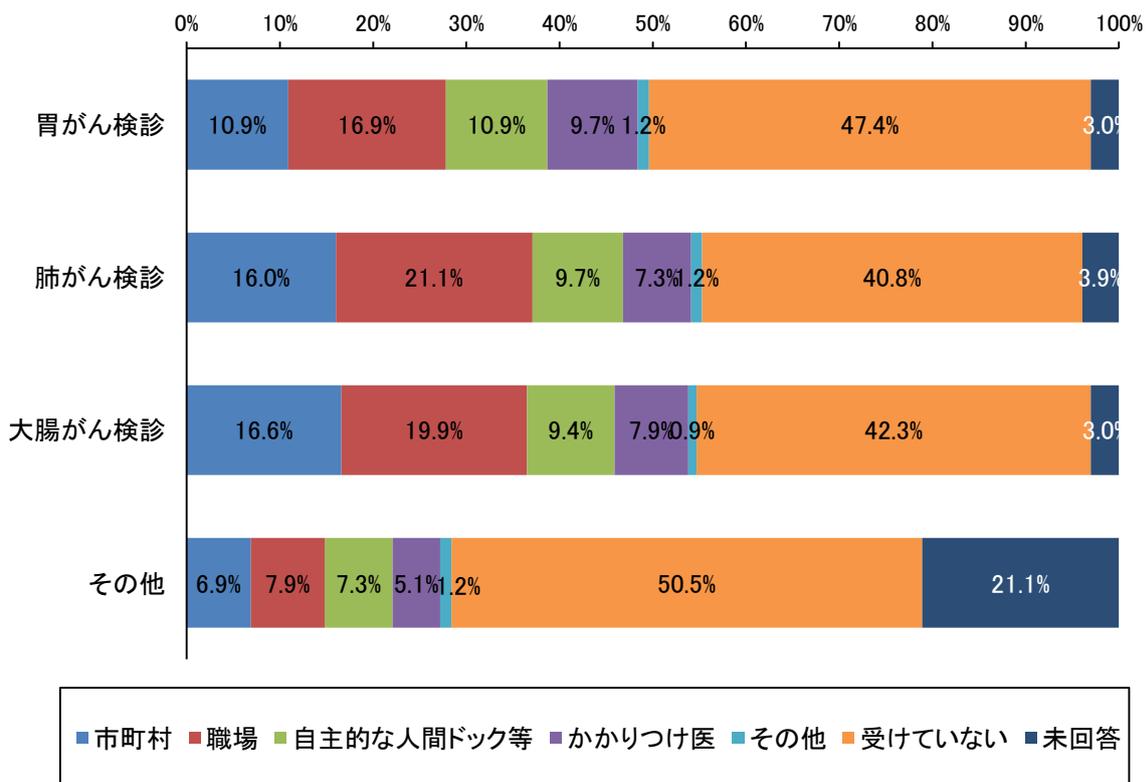
問8 あなたは、次のがん検診を過去1年以内に受けたことがありますか。何の機会に受診したのかも含めてそれぞれのがん検診についていずれかに○印をつけてください。

<受診状況>

回答者数331



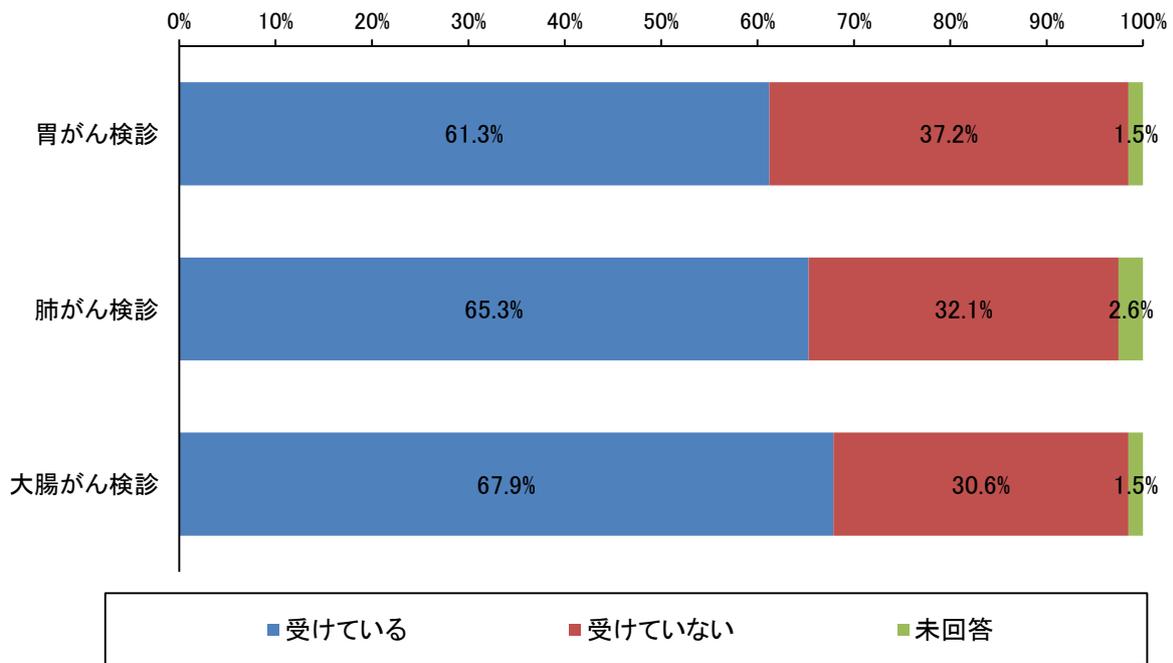
<受診の機会>



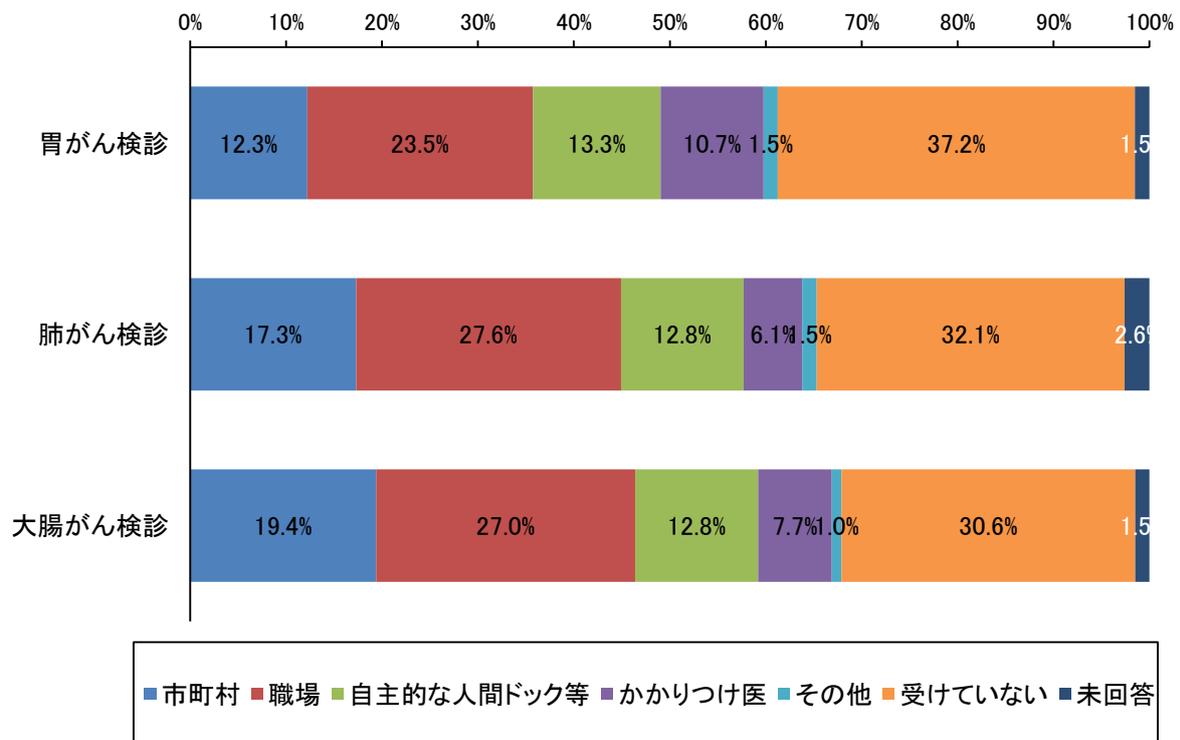
胃がん検診・肺がん検診・大腸がん検診

<受診状況> 40歳～69歳

回答者数196人



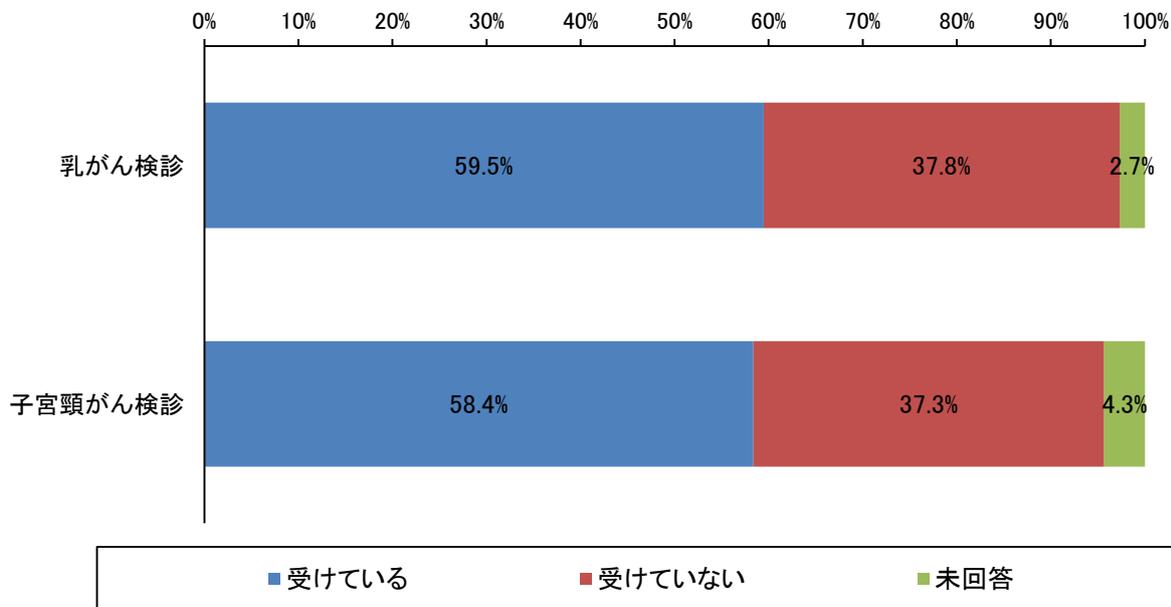
<受診の機会> 40歳～69歳



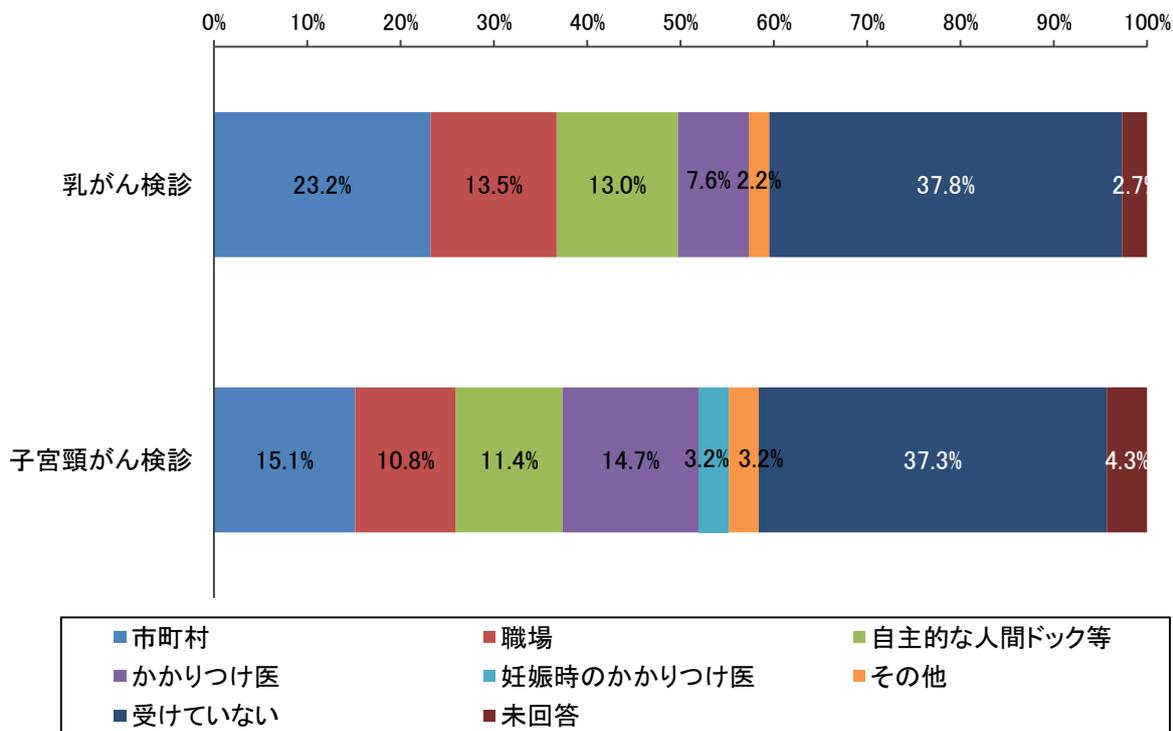
問9 女性の方におたずねします。あなたは次のがん検診を過去2年の間に受けたことがありますか。何の機会に受診したのかも含めてそれぞれのがん検診についていずれかに○印をつけてください。

<受診状況>

回答者数185人



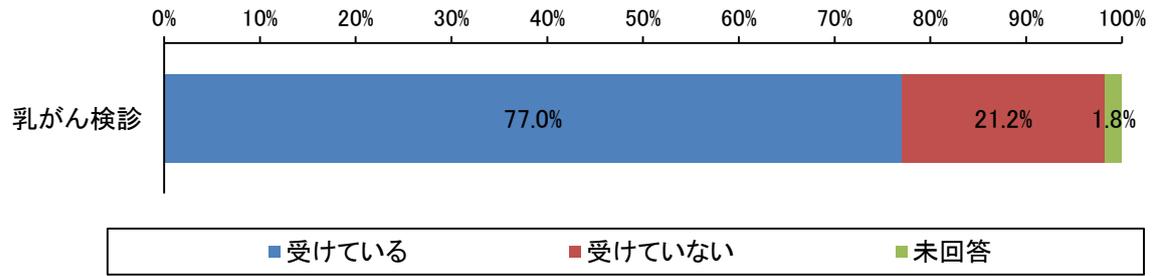
<受診の機会>



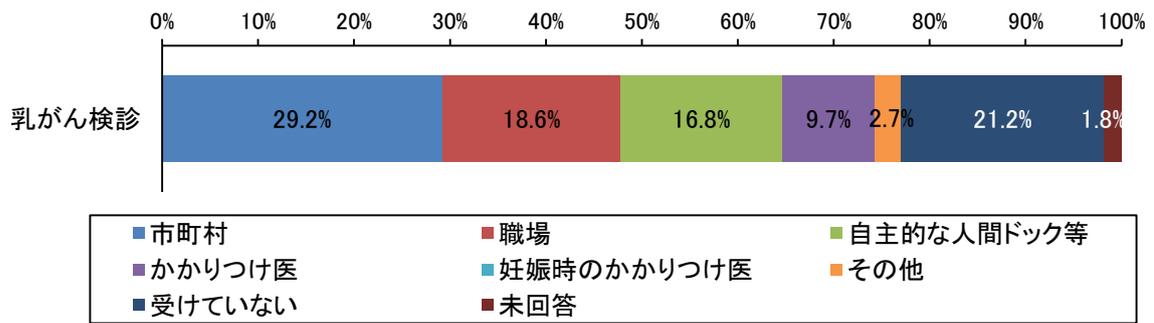
乳がん検診

<受診状況> 40歳～69歳

回答者数113人



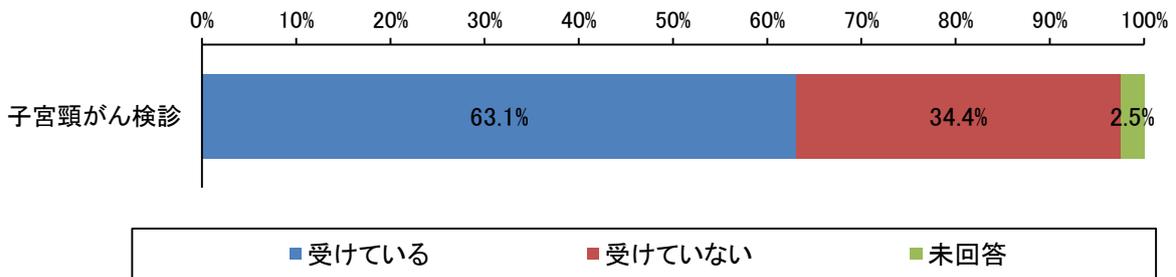
<受診の機会> 40歳～69歳



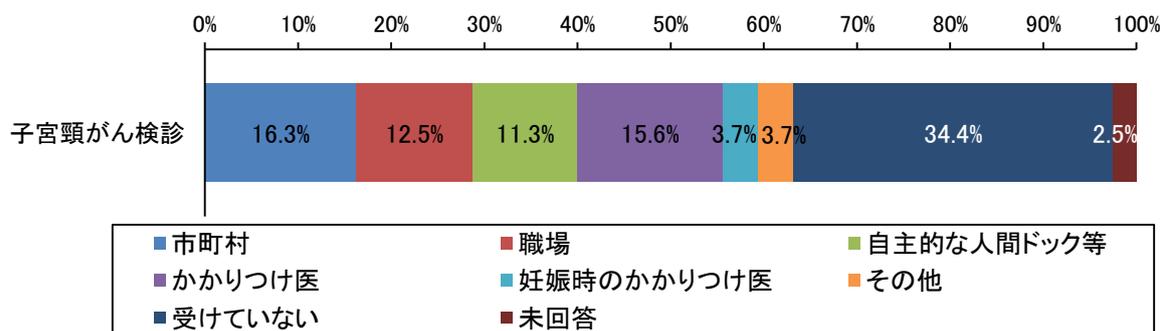
子宮頸がん検診

<受診状況> 20歳～69歳

回答者数160人



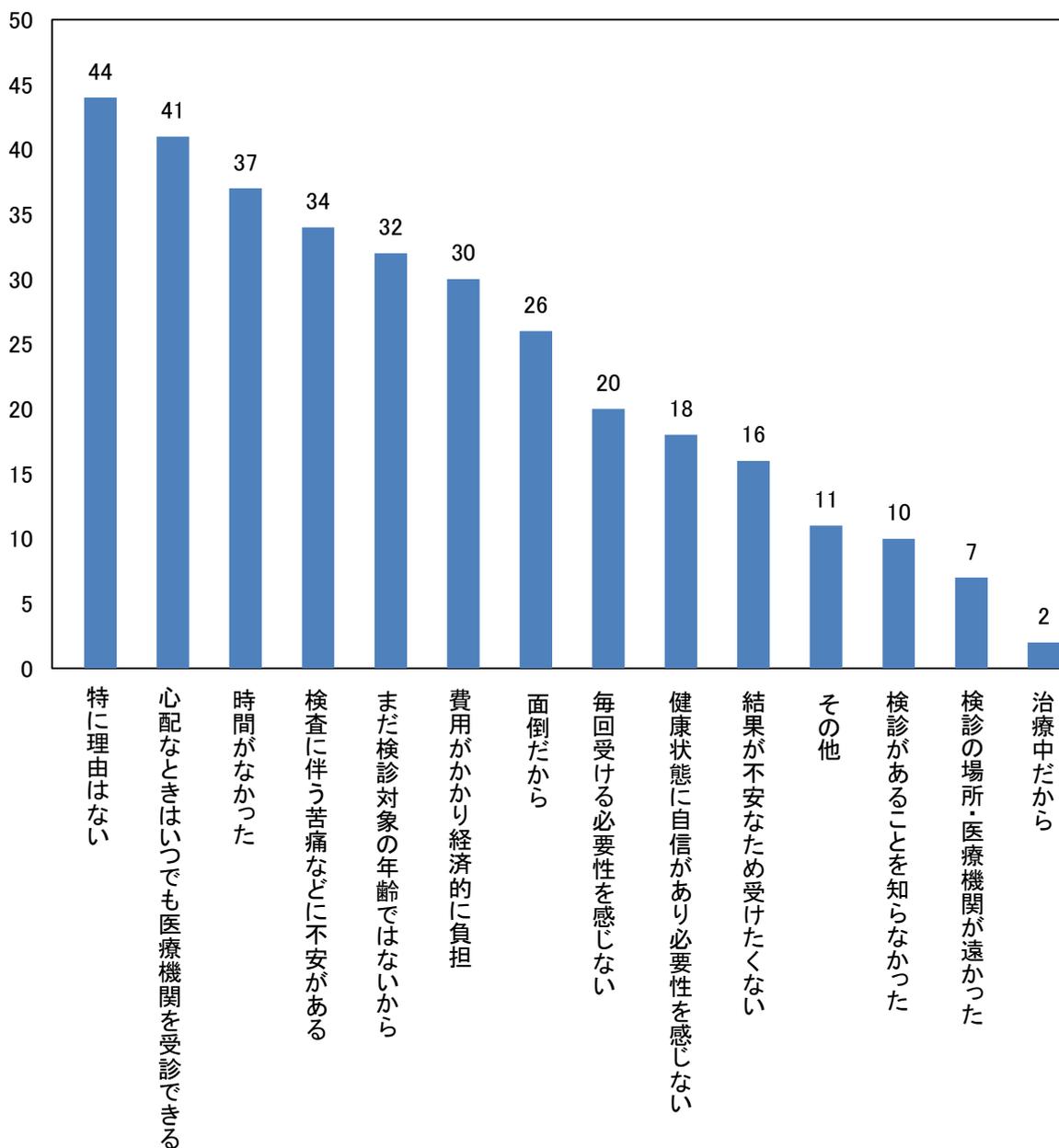
<受診の機会> 20歳～69歳



問10 問8、9で「(がん検診を)受けていない」がひとつ以上ある方におたずねします。  
受けなかった理由は何ですか。(複数回答可)

回答者数217人

(人)

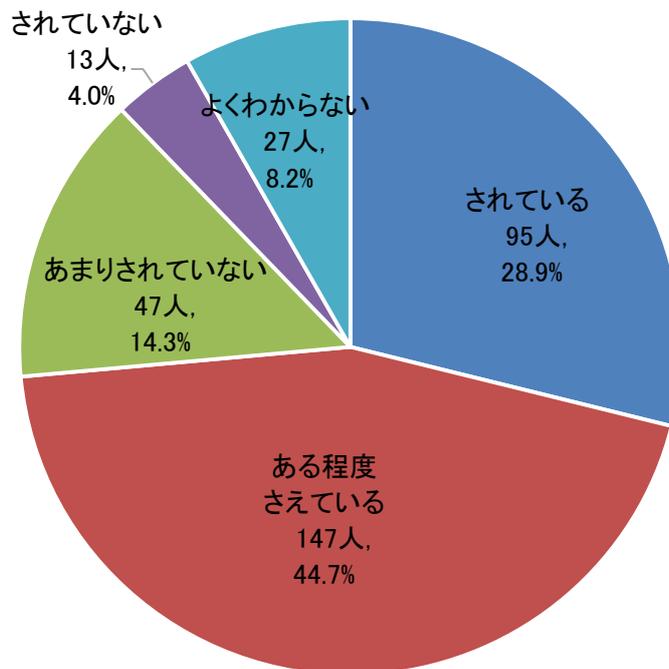


(その他)

- ・土日によってる病院が少なく、仕事を休めない
- ・申し込みのタイミングが合わない
- ・血縁者に誰もがんの人はいないから
- ・どのタイミングで受ければいいのかわからない
- ・乳がんは自分で分かると思う
- ・妊娠、授乳中のため

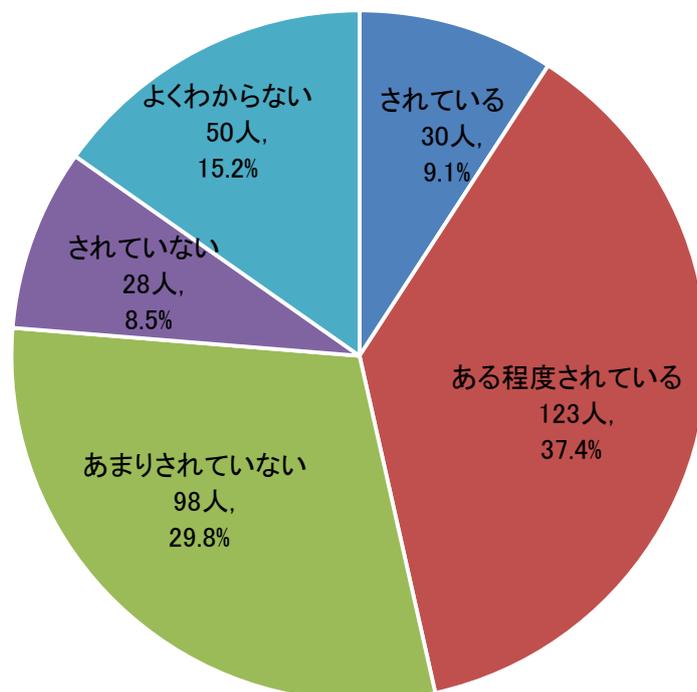
問 1 1 市町村が実施するがん検診では、各市町村において住民に対する受診案内や受診に関する普及啓発活動が行われていますが、十分に周知・広報されていると思いますか。（1つ選択）

回答者数329人



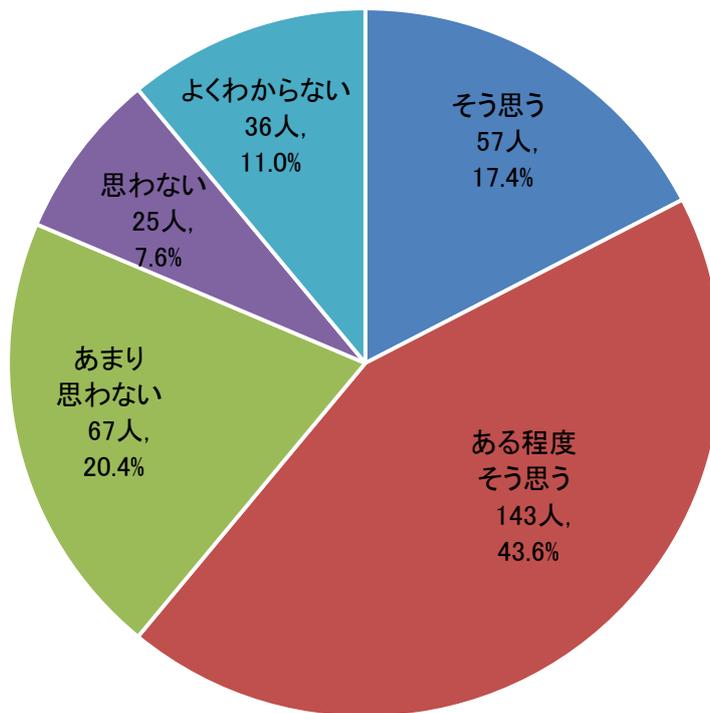
問 1 2 県では、がん検診受診率向上を目的とした普及啓発活動を行っていますが、県の活動は十分周知・広報されていると思いますか。（1つ選択）

回答者数329人



問13 あなたは、市町村や職場等が実施するがん検診について、受診しやすい体制（受診しやすい会場・医療機関、時間帯等）になっていると思いますか。（1つ選択）

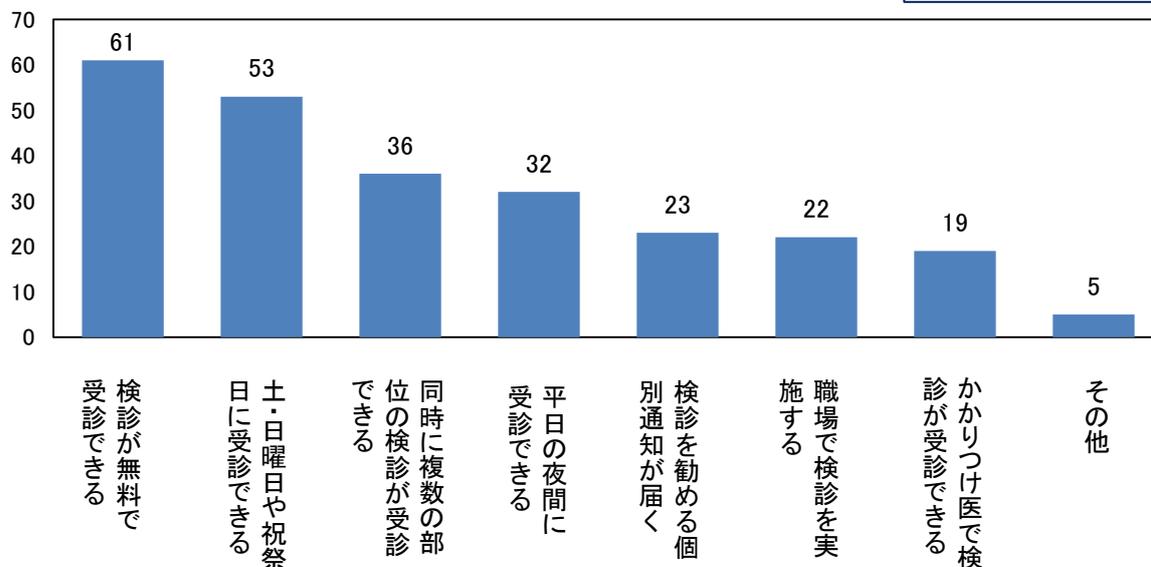
回答者数328人



問14 問13で、「(ウ)あまり思わない」及び「(エ)思わない」と回答した方におたずねします。どうしたらもっと検診が受けやすくなると思いますか。（複数回答可）

(人)

回答者数92人

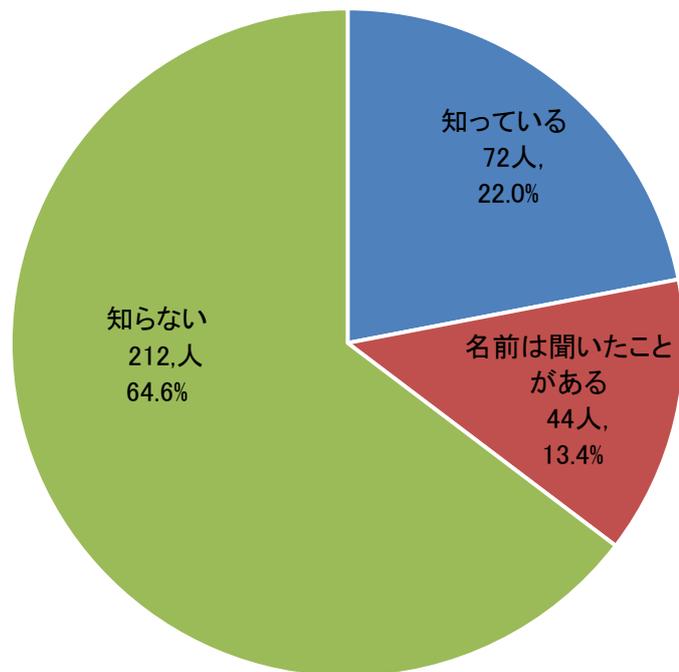


(その他)

- ・予約なしに当日空いていたら受診できるようにする
- ・検診料を安くする
- ・交通が不便なので近いところで検診が受けられれば良い
- ・どの地域でも一日の人間ドックが受けられるようにして欲しい

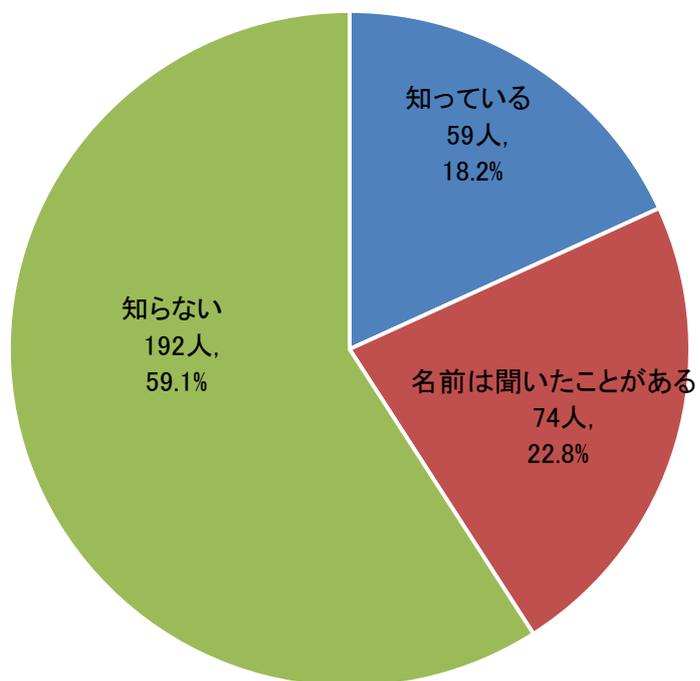
問15 あなたは、県内に「がん診療連携拠点病院」があることを知っていますか。  
(1つ選択)

回答者数328人



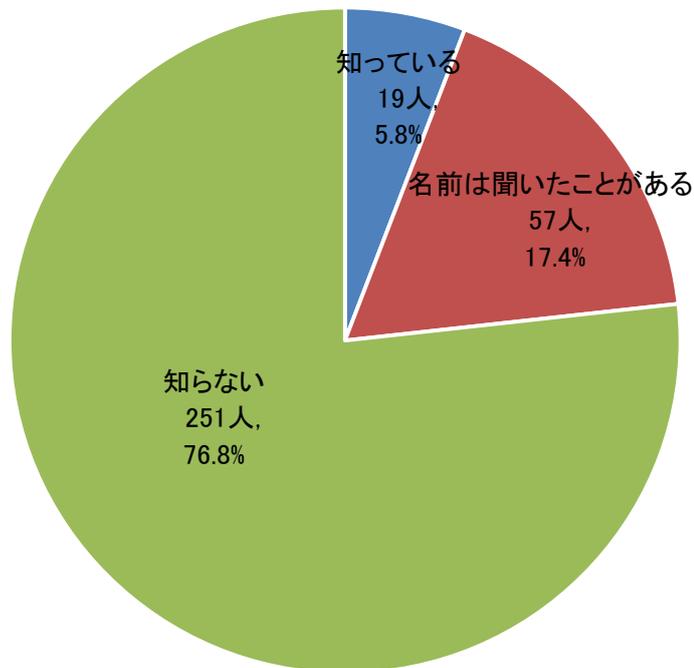
問16 あなたは、県内に「がん相談支援センター」があることを知っていますか。  
(1つ選択)

回答者数325人



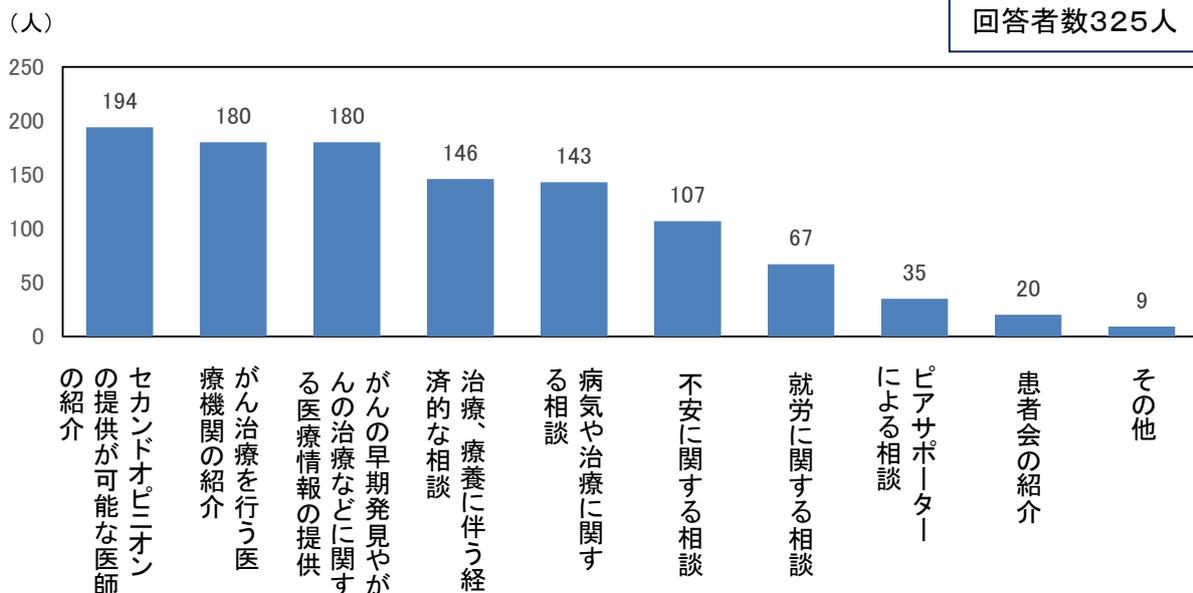
問17 あなたは、県内に「県がん患者サポートセンター」があることを知っていますか。  
(1つ選択)

回答者数327人



問18 がんに関する相談支援において、あなたが充実させてほしいと思う内容は何ですか。  
(複数回答可)

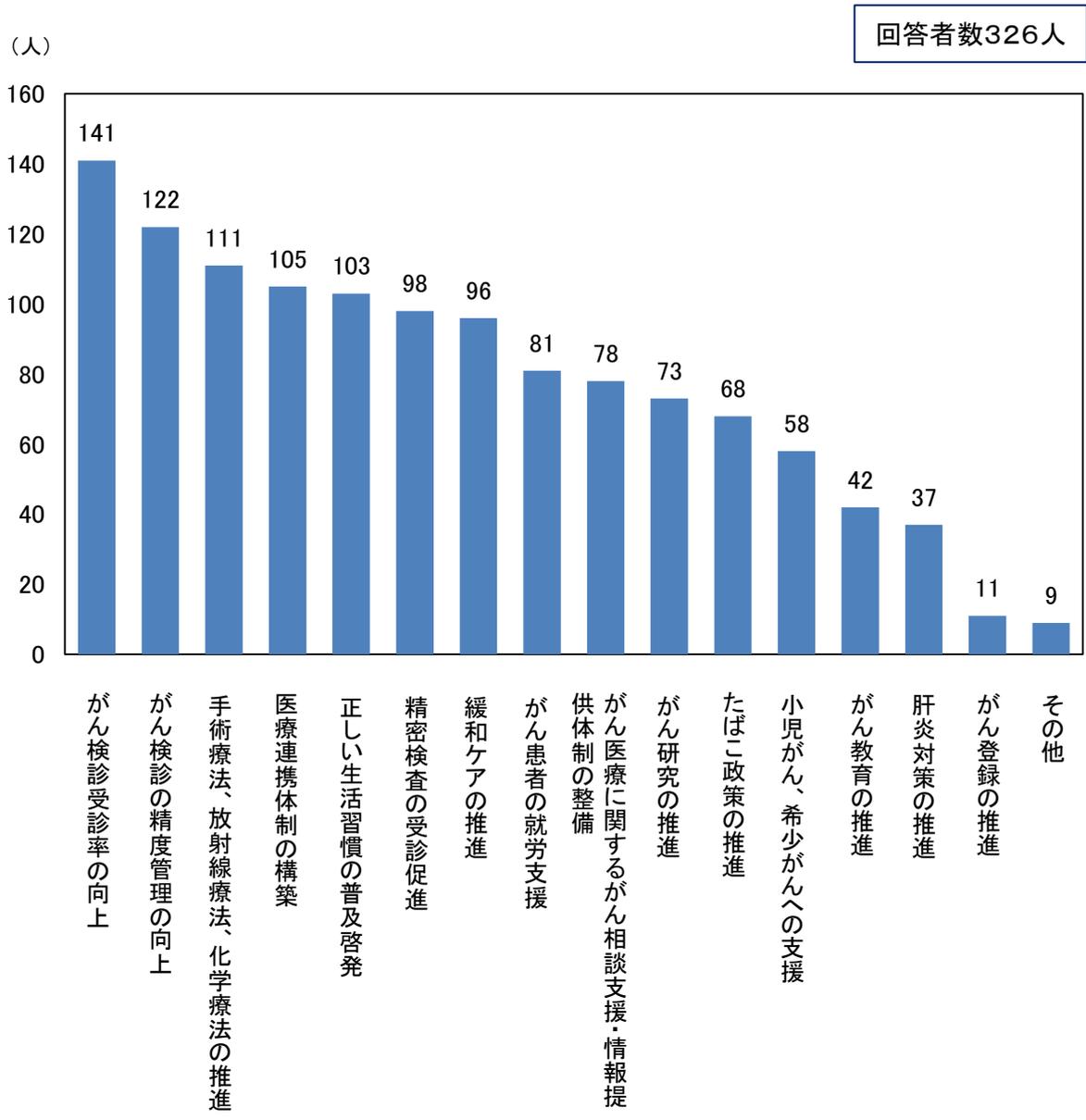
回答者数325人



(その他)

- ・家族への説明や対応法、経済的支援策などのフォロー
- ・市町村等の高額療養費の公費負担とかの手續等の相談
- ・遺族のサポート
- ・がんになった時に即座にサポートしてほしい
- ・がんに関する相談支援を行っていることを知らなかった

問19 あなたは、がん対策について、県にどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。（複数回答可）



(その他)

- ・すべてのがんの医療費の支援
- ・経済的不安の解消 無償がん検診受診制度
- ・受診率を向上させるなら、医療機関での医者、看護師の技術、倫理の向上をより一層目指して、信頼性を高めてほしい
- ・現在どのような対策があるのかわからない

問 2 0 その他、本県のがん対策に関してのご意見や、要望などがありましたらご記入ください。  
(自由記載)

<一部抜粋>

1	がん患者さんが増えているのに、県内の専門医が少ないと思う。メンタル的なフォローなどがん診療連携拠点病院等、医療スタッフが充実しているところに受診したい。(40代、女性)
2	県外に行かなくても県内のがん治療のレベルを上げる必要がある。(60代、男性)
3	地域による医療の格差をなくして欲しい。(40代、女性)
4	「がんセンター」のようながん専門病院を設けてほしい。(50代、女性)
5	小さな医療機関に頼るのみの現在の医療体制では、がん治療に不安がある。大きな病院ばかりが良いとは思わないが、いつも不安を感じる。(70代、男性)
6	身近にがん告知や治療中の者が多くいる。相談・情報提供・研究の推進や支援等を希望する。(60代、女性)
7	医療技術の向上と倫理観を持った医療機関の充実、あたりまえに受ける健診の環境とその後のフォロー体制の充実。(50代、女性)
8	がん診療連携拠点病院の充実と専門の高度医療機関との連携強化。治療が困難だと思ったらすぐ専門の高度医療機関を紹介してもらいたい。(70代、男性)
9	病院への受け入れ体制が不安。特に「がん」の診断をされた時、県内の病院が一杯で受け入れが不可の可能性があるのでないか、専門の医師がいるかとか不安に思う事があります。(50代、女性)
10	県は少なくとも山梨県内の医療機関の医者、看護師等の技術、倫理意識の向上に努めてほしい。検査する側の意識の向上を目指してほしい。(70代、男性)
11	CT、MRI、PETなど精度の高い検診を気軽に(安く)受けられるようになるとありがたい。(50代、男性)
12	県内において、技術面・経済面の両面で安心して、高度ながん診療を受けられるような医療体制をつくって欲しい。(60代、男性)

13	がんに限らず医療全般が一層良くなるために、医師・看護師・検査技師が増えること、経験を重ね、連携をしながら研究を進める体制で、より良い医療が進められるよう期待している。(60代、女性)
14	がんと聞くと不安が大きく、治療の大変さを見てきた。気軽に受診でき回復できることも、強くアピールして欲しい。また医師や病院によっても、見立てが違い生死を分けることになるので医療の充実、医師のレベルアップ、医療機関のレベルアップ、誰もが先進医療が受けられることを希望する。(60代、女性)
15	検診を受けたいが、仕事を休まなければならないため、市町村の健康診断の時期を指定せずに、1年を通じて受診できると良い。(40代、女性)
16	働きざかりの世代には職場で保健師が指導することが、一番効果的と実感している。各事業所に呼びかけていくことをぜひ行っていただきたい。(40代、男性)
17	個人の意識が一番大切なのかもしれませんが、日々の生活に追われていると、不調を感じてからの受診になりがちだと思う。年に1回会社で受ける健診が基本健診だけでなく、詳しく検査できる内容に統一されると嬉しい。料金も負担してもらえらるともっと助かる。(30代、女性)
18	身近に検診せず進行癌で発見され、適切な治療受けられずに死亡している人がいる。検診の徹底が大切。(60代、男性)
19	個人の意識によるが、自営業や主婦、パート・アルバイト等組織に入っていない人は検診を受ける機会や意識が低い。検診受診率を向上し早期発見や治療が今後の課題だと思う。(60代、女性)
20	検診しやすいように、現在どのような対策、サポート状況があるのか普及が必要。(30代、女性)
21	がんと診断されると(死)(こわい)の印象を持つのは、人間である以上皆同じだと思う。こわくない・死に至らない・治療は心配ないなど、安心感をPRできる対策を具体的に医療機関等と連携して、県民に周知できるようなものがあればいいと思う。(60代、男性)
22	飲食店などはすべて禁煙にしてほしい。がんにならない為の食事など予防対策に力を入れて欲しい。(50代、女性)
23	がん診療連携拠点病院、がん相談支援センター、県がん患者サポートセンターなど知らないことがたくさんあり、勉強になった。(40代、男性)
24	病気に対する意識は個人の認識の問題。受診する者、そうでない者とバラバラ。小、中、高の学校授業の中に生涯教育として、正しい知識または意識を植え付けることが早期発見、啓発となり、お金がかからない医療となるのではないかと。県がどんなに推進しても、全県民を動かすことはできない。(70代、男性)
25	がん情報の普及・周知に関する取り組みを積極的に行うことが必要である。(20代、男性)

26	「がん」と聞くとマイナスなイメージが強く、なかなか話題になりにくい。しかし実際がんになると情報が取れることは大切だと感じる。家族や自身のがんになってはじめて知ることが多い。(30代、男性)
27	がんについての知識など情報を広報等で毎月載せ情報提供の機会を増やしてほしい。(20代、女性)
28	県内に「がん相談支援センター」や「県がん患者サポートセンター」があることを知ることができ良かった。(60代、女性)
30	がんを発症してから、だれにも相談できず、一人で悩んでいる人、職場の理解が得られず復帰できない人、困っている人を助けてあげて欲しい。(40代、女性)
29	乳がん検診なども各企業と連携し、無料にならないものかと思う。(一部の企業では推進運動をしていて、かかった分のクオカードなどプレゼントしてくれたりしている)そういった事を活用できないか。(50代、女性)
31	がんの治療は時間、費用共に患者にかかる負担が大きく、薬品によっては値段が高く、治療を途中で断念した方の話も聞くので、その為の支援も考慮してほしい。(60代、女性)
32	私はがん＝怖いです。毎年検診を受診しているのに、がんになってしまう。がんが見つかり手遅れ。そのような人達は何人かいた。私も毎年検診は受診している。人間ドックなど費用が高額なので、もう少し安価になることを望む。(40代、女性)
33	がんや患者さんについて具体的な知識はないが、治療と社会生活(就業)が両立できることが望ましいと思う。その為に地方行政には力をつくしていただきたい。経済的に心配しないで治療できるようだと、更に安心して闘病(今はがんと共生、とか聞きますが)生活を送れると思います。(40代、女性)
34	治療費の自己負担と公的保険の手続きの説明や相談を充実して欲しい。(30代、男性)
35	がん高額治療費の助成制度の確立を要望したい。(20代、男性)
38	がん対策は日頃から各自が関心を持ち、早期に受診していくことが大切だと思う。(50代、女性)
36	日常生活の中で自己管理(食生活、運動)等を行っている。(80代以上、女性)
37	がんに関しては大変難しく、私も胃カメラの検診を受けていても、そのたびにハラハラしている。自身の生活態度が悪いからがんにかかると思いつつ、がんになった時は甘んじて受け止めようと、天に任せるつもりで過ごす。年をとってあまり人に迷惑を掛けたくないと思うようになり、情報があり過ぎると精神的に疲れてしまうこともある。(70代、女性)

39	市町村のがん検診でがんが見つかった。早期発見、早期治療で現在は半年に1回の定期受診・検査している。(30代、女性)
40	がんと診断されたら年齢的な不服はもうないので、痛みをとってくれる治療をしてほしい。そのためには日々を後悔しないように、楽しく充実した生活を送る様過ごしている。(70代、女性)
41	がんは自身の体のこと、根本的に自分の意識が変わらなければ意味はないと思う。(40代、男性)
42	この年になると日々の生活に、支障がなく、暮らしていただけることが大事だと思う。私は、わざわざ検査して病気を見つけたいとは思わないが、県のがん対策にいろいろ取り組んでいることを知り、家族にもがん検診は大いに利用するべきと伝えた(70代、女性)
43	がんといわれても他人事。今から考えたら怖いので、宣告を受けたらその時に考えようと思う。(50代、女性)